2016年度　情報学部・総合科学技術研究科情報学専攻の就職・進学状況　Career choices of new graduates

情報学部キャリア支援室　渓村和明

2016年度の採用選考開始時期が昨年よりも2ヶ月早く、6月1日以降となりました。2016年度も情報学部と総合科学技術研究科情報学専攻では共に高い就職率を維持することができました。2017年2月28日現在で、表のように学部95.5%、研究科100%の内定率となっています。未内定の学生にも3月下旬の卒業・修了まで就職活動の支援を引き続き行います。

学科・研究科		卒業予定者数	就職希望者数	内定者数	大学院進学者数	内定率	進学率
情報学部	情報科学科	98	49	49	46	100.0%	46.9%
	情報社会学科	103	84	78	19	92.9%	18.4%
	計	201	133	127	65	95.5%	32.3%
総合科学技術研究科情報学専攻		54	50	50	4	100.0%	7.4%

学部・研究科の主な進路先

情報科学科	情報社会学科	総合科学技術研究科情報学専攻
アイシン・エィ・ダブリュ	厚生労働省	アイシン・エィ・ダブリュ
アルファシステムズ	静岡県警	ＳＣＳＫ
内田洋行	磐田市役所	ＮＥＣ
ＳＣＳＫ	アサツーディ・ケイ	ＮＴＴドコモ
ＦＤＫ	インテック	トヨタ自動車
ＮＴＴデータ	ＮＥＣフィールデング	京セラ
京セラコミュニケーションシステムズ	ＮＴＴ西日本	ＫＤＤＩ
コーエーテクモ	ＪＡ全農	ＪＲ東海
ジェイアール東日本情報システム	静岡銀行	スズキ
ＴＩＳ	スズキ	ソフトバンク
デンソー	全日本航空	大日本印刷
東海澱粉	ＴＯＫＡＩホールディングス	ダイフク
東芝	豊田合成	デンソー
豊田自動織機	名古屋鉄道	東芝テック
トヨタ自動車	日東電工	日立製作所
富士通	日本医科大学	富士通
ニフティ	日本発条	富士通エフサス
三井住友信託銀行	日立製作所	三菱電機
三菱電機インフォメーションシステムズ	三井住友銀行	矢崎総業
ヤマハモーターソリューション　等	リョービ　等	ヤマハ　等

近年の学部･研究科卒業生の主な就職先は左記の通りです。情報科学科では、大手情報通信産業や製造業が多く、情報社会学科では、公務員、金融保険業、製造業などが多くなっています。情報学部では、3年次でのインターンシップや就職活動ガイダンス等に加え、学生との綿密な面接指導を行い、学生が希望の職に就けるように支援しています。写真は、2017年2月に行われた合説活用講座の様子です。

合説活用講座（2017/2/16）

平成 29(2017)年度　行事予定表

2017年

4月4日	入学式･保護者懇談会(新入生の保護者対象)
4月5日	ガイダンス(1･4年)
4月6日	ガイダンス(2･3年)
4月10日	前期授業開始
4月22･23日	新歓合宿(休暇村伊良湖)
7月31日	前期試験期間(～ 8月4日)
8月3日	TOEIC 試験(1年生)
8月7日	夏季休業(～ 9月15日)
8月8日	夏季オープンキャンパス
9月16日	集中講義(～ 9月30日)
10月2日	後期授業開始
11月11･12日	静大祭･テクノフェスタ(浜松)
11月11日	保護者懇談会･個別面談
11月18･19日	静大祭(静岡)
12月24日	集中講義(～ 12月27日)
12月28日	冬季休業(～ 1月3日)

2018年

1月5日	授業再開
2月5日	後期試験期間(～ 2月9日)
3月22日	学位記授与式･卒業祝賀会(浜松)
3月23日	学位記授与式(静岡)
3月26日	春季休業(～ 3月31日)

新講義棟整備へのご寄附のお願い

情報学部長　近藤　真

情報学部 3 学科の新体制と新しい教育手法に対応した教育環境を整えるため、現在、5 階建ての城北講義棟の建設を情報学部を中心に進めています。今年の 9 月に完成し後学期の授業から使用開始します。

新講義棟には、アクティブ・ラーニングという新形式の教育を実践するための設備の導入、イベント・学会を行うための大教室という特徴を盛り込みました。この野心的なプラン実現のために、地元の企業・社会、同窓会・保護者の皆様にご寄附をお願いしております。

ご寄附につきまして、厚かましいお願いで恐縮ですが、1 口 1 千円、1 口以上でお願いします。なお個人で 3 万円以上のご寄附を頂いた方には、新講義棟に設置する芳名板にご芳名を掲示させて頂きます。詳しい説明は情報学部専用 Web ページ(www.inf.shizuoka.ac.jp)のバナー「新講義棟寄附のお願い」をクリックしてご覧下さい。

新講義棟は、情報学部・研究科学生の教育と研究の更なる発展をめざし、今、私たちが一番力を入れているプランです。ここでの効果は、授業だけに止まらず、授業外での自主的な勉学、学会・研究会に活用されます。皆様にどうかご寄附をお願いする次第です。

新講義棟イメージ図

お問い合わせ　〒432-8011 浜松市中区城北3-5-1 静岡大学情報学部事務局
TEL:053-478-1510・1511　FAX:053-471-0249
学務窓口 pr-gakumu@inf.shizuoka.ac.jp　広報窓口 prcom@ml.inf.shizuoka.ac.jp

情報学部のウェブページをご覧ください。
情報学部では、保護者・受験生・社会人・一般・企業の皆様向けに学部のウェブページを公開しています。最新情報が掲載されていますので、どうぞご覧ください。
http://www.inf.shizuoka.ac.jp/

Joy風
Faculty of Informatics
Shizuoka University Newsletter
Vol.18, April 2017
http://www.inf.shizuoka.ac.jp
April2017
vol. 18
静岡大学情報学部

行事報告　Report of events

静大祭 in 浜松　共に創り、次につなぐ静大祭

情報社会学科　小林 元気

平成 28 年度静大祭 in 浜松は 11 月 12 日、13 日に開催されました。今年度はシンガーソングライターの植田真梨恵さんによるライブ、両日の催しとして模擬店、パフォーマンス、室内展示、フリーマーケットなどが行われました。この 2 日間にわたる静大祭 in 浜松を開催するに当たっての企画、調整を行っている裏方集団こそ、私たち浜松静大祭実行委員会（略称：大祭【だいさい】委員会）です。私たちは大学事務局だけでなく各分野の業者さん、公的機関、メディアなど様々な方と折衝を繰り返しながら、1 年間かけて着実に準備をしています。

浜松静大祭実行委員会（2016/11/12,13）

私は前年度も実行委員として関わっていましたが、2 年生になって実際に主導する立場となると自分の知識不足によりたびたび問題が発生し、関係の方々に迷惑をかけたこともありました。しかし、そのたびに 3 年生以上の先輩方の知恵や 1 年生の力を借りたりしてすべてを乗り越えることができ、それによる達成感はひとしおでした。私はこの委員会活動を通じて普段から自分の周りの人々を大切にし、誠実にかかわることがいかに大切であるかに気づくことができました。また、嬉しい事に、私のもとで各々個性を発揮し、貢献してくれた 1 年生の多くが次期役員として活躍してくれています。そんな頼もしい彼らを今度はうしろから支える立場として、来年度の静大祭 in 浜松も成功させることができるよう、力を尽くしていきたいと思います。楽しい静大祭にしましょう！

テクノフェスタ　情報学部の多様な教育

テクノフェスタイン浜松実行委員　岡田 泰平

全体では、参加者が実験を行う「キッズサイエンス」と「おもしろ実験」計 68 件と研究室の成果を示す研究室公開展示 96 件が行われました。情報学部では、「おもしろ実験」3 件と公開展示 20 件を催しました。今年も二日間盛況で、全体で 1 万人以上が来場してくださいました。

テクノフェスタイン浜松（2016/11/12,13）

公開の情報学講義では三学科の多様なアプローチが示されました。情報学部の展示では、スマホ・アプリの作成、バイクを利用したビッグデータの創出、認知症と情報、近未来の生活空間における情報技術の利用など情報学の実社会への適用を重視したものが多数でした。そのほかには、数学のゲームやプログラミングの原理のデモンストレーション、トークセッションや哲学カフェが行われました。

多くの展示で、子どもも楽しめるものになっており、やや難しいテーマも誰にでも分かるような工夫がしてありました。テクノフェスタは情報学部の産業界とのつながりというよりも、より幅広い社会との関係性がよく見えるイベントです。ぜひともお越しいただき、情報学部の魅力ある教育に触れていただきたく思います。

ホームカミングデー　人生を豊かにする情報学部の同窓ネットワーク

同窓会WG　ウィルキンソン・吉田

情報学部発足から 20 年が経ち、すでに多くの卒業生が各地で活躍しています。またその学生時代に付き添い今は退職された教職員たちもすでにかなりの数になりました。

情報学部では、11 月のテクノフェスタ・大学祭に合わせて、こうした卒業生や退職教員たちを古巣に迎えて懇親会「ホームカミングデー」を開いています。現役の学生や教職員も集まって、旧交を温めたり、あるいは新しいつながりをつくったりするよい機会になっています。

情報社会が発展するにつれて、従来とは異なる新しいスタイルの働き方や生き方が期待されるようになっています。ややステレオタイプになりますが、一つの場所にどっぷり漬かって滅私奉公するタイプから、自分自身の発想やスキルを持ち、多様なネットワークを生かして柔軟・スマートに活動できるタイプへと、期待される人材像がシフトしているのです。

ホームカミングデーをはじめとする同窓活動は、卒業してからも卒業生一人一人を一生支え続け、卒業生が豊かな人生を歩んでいくための大切なネットワークの一つとして、情報学部が育てている文化です。

2016 ホームカミングデー（2016/11/12）

大学生活の思い出

University memories

人の役に立つことを

情報科学科　CS プログラム　山下 大貴（大学院進学）

情報系ってなんとなく就職が良さそうだから・・・。そんな軽い気持ちで静岡大学の情報学部に入学しました。入学した頃は、コンピュータの知識やプログラミングの技術等も全く無かったので、講義では周りとの差をすごく感じました。また、憧れの一人暮らしも思っていたよりも大変で、今後やっていけるのかと不安でした。

ただ、時が経つにつれ、面倒見の良い友人達が丁寧に教えてくれたこともあり、コンピュータの知識やプログラミングの技術が少しずつ身につけることができ、また、サークル活動で楽しく活動することができたので、その不安も少しずつ無くなっていきました。

そして、３年次に配属された研究室では、人の役に立つ研究ということの大事さをすごく考えさせられました。今、情報学の知識や技術は医療や農業など至るところで活かされており、そして必要としているところはまだたくさんあります。その必要としている人達に少しでも役立てればいいなと思い現在一生懸命研究を行っています。

今後大学院に進学して研究を進めていきますが、社会に出ても人の役に立てるよう頑張っていきます。

ゼミ活動で得たこと

情報社会学科　ID プログラム　平澤 由季（航空会社就職）

私は、中学や高校の頃からパソコンの授業に苦手意識を持っており、入学当初は情報学部の授業にたくさん不安を抱いていました。しかし、講義を受けるうちに情報学部で学ぶ“情報”とは、プログラミングにみるような機械的なものだけでなく、メディアやコミュニティで形成され、発信される情報であることがわかり、私はその方面の情報に興味を持つようになりました。

大学３年生になると、私は、メディア・テクストのメッセージ読解や、メディアの表現手法の研究する森野教授の研究室に所属することになりました。週２日のゼミ活動では、ゼミ生が興味をもつメディアに関する事象をテーマとして取り上げ、分析しました。私が特に印象が残っているのは「月９（ドラマ）の特徴」や「ビール CM の比較」です。メディアとは、生活において切っても切り離せないものであり、日々の生活において生じる“気づき”を研究できたことがとても楽しかったです。

また、課外活動として夏休みに合宿に行ったり、龍潭寺に足を運んだりしたことも、思い出に残っています。幸せな気持ちで卒業を迎えることができたのは、先生やゼミ生と楽しさを共有できたからだと思い、とても感謝しています。

学びと遊びから得た自主性と主体性

情報社会学科　IS プログラム　谷口 諒輔（大学院進学）

広義に大学の存在意義を考えるに多くの学生は、社会的自立の場として捉えることが多いのではないでしょうか。私は幸運にもこの４年間、講義やサークル活動、学会発表やアルバイトその他様々な経験を通じて、学内外を問わず、様々な所で自らを発信する機会を得ることができました。大きくは、社会経験と見て取ることができますが、一つ一つ、その本質的意図は異なります。その最大の相違が、副題に掲げる「自主性と主体性」ではないでしょうか。これは、学年を重ねるごとに、グループワーク / ディスカッションの時間が増えたということからも顧みることができます。単独ではなく複数人の中で、さらにその中における自身の役割を創出し自発性を持ってして行動に移すという過程は、眼前の事物をただ対処する自主性から、不偏に全体を見渡した上で対処する主体性への動転であると言えそうです。これからの自分に携わる、そしてより一層求められると考えられる主体性について、大学生活のこれら思い出を振り返りつつ、次に歩んでいきたいと思います。

大学院進学を振り返って

総合科学技術研究科・情報学専攻　小谷 亮太（IT系（金融）就職）

学部４年生のとき、就職するか大学院に進学するかで迷っていました。就職活動と並行して卒業研究を進めるうちにより深く研究内容についてつきつめたいと思い、そのためには、より専門的な知識や他分野の知識が必要であると感じ、大学院への進学を決意しました。修士２年では、指導教員の梶博行先生の退職を期に、梶研究室から西村研究室に移りました。それまでとは異なる分野の研究室ということもあり、始めはとまどいもありました。しかし、梶先生と西村先生から研究に対する取り組み方をご指導いただけたことや２つの研究室でさまざまな専門分野に接することを通じ、幅広い知識を得ることの面白さや大切さを実感でき、とても貴重な経験だったと思います。

今振り返ると大学院に進学してよかったと感じています。学会での研究発表など様々な機会を通じ、技術的知識だけではなく、プレゼンテーション能力や問題発見・解決の力が身についたと思います。大学院で得た知識や経験は今後、社会に出ても活用できると思います。

退職教員による「情報学部の思い出」

Memories of retired professors

人工知能の創始者 Minsky 博士と認知症情報学

竹林 洋一

2002 年から情報学部で人間社会を心豊かにするための研究を、学生や教員と楽しむことができました。2004 年に国立大学で初めて教員が役員兼業する大学発ベンチャー「デジタルセンセーション社」を設立し、2009 年に AI の創始者、MIT のミンスキー教授（静大を６回訪問，2016 年他界）の 50 年間の研究成果『ミンスキー博士の脳の探検 – 常識・感情・自己とは－』を訳出しました（写真は出版記念の集い）。

2015 年に情報処理学会に高齢社会デザイン研究会を設立し、2016 年 10 月に日本子ども学会と情報学部共催で、子ども学会議（テーマ：長寿社会の子どもと情報学－ 家族・地域・メディアとつくる子どもの未来－」を開催し、生涯発達、健康・福祉、地域創生について議論しました。そして定年後の 2017 年夏に、浜松キャンパス内に一般社団法人「みんなの認知症情報学会」を設立する運びとなりました。ミンスキーの偉大な研究を継承しながら認知症情報学を深耕し、認知症の人と家族が安心・安全に暮らせる社会の実現に向けて取り組むつもりです。情報学部関係者のお力添えをお願いする次第です。

情報学部長時代の思い出―疾風怒濤の 11 ヶ月―

西原 純

大学院を終えた後、長崎大学教育学部での 17 年間の勤務を経て、1997 年４月より 20 年間、本学部にお世話になりました。縁があって 2013 年４月から 11 ヶ月間、学部長・研究科長を務めたことが私の最も強い思い出です。

折しも静岡大学は文科省・国立大学ミッションの再定義作業と静大再編プランづくりに注力していた時でした。文部科学省との打ち合わせでは、情報学部・研究科の将来をかけて、毎回、担当者と白熱した議論をしました。その時の緊迫した議論を思い返すと今でも心臓の動悸が起こります。

そして静岡大学の再編の中、文系他学部の学生定員を受け入れて、情報学部を２学科から３学科体制へ移行する学部再編を教授会で決定しました。文工融合をさらに発展させるためでしたが難しい決断でした。IoT･人工知能･ビッグデータ･セキュリティなど情報学の発展が強く期待されている社会情勢下でも、学生定員の増加に比例して必ずしも志願者数が増えるとは限らないからです。お陰様で、行動情報学科を担う新しい先生とともに、活気がある学生諸君を迎えることができました。

情報学部の新体制づくりに私なりに寄与できたこと、たいへん嬉しく思います。

我らのリンゴハンターズ

中谷 広正

リンゴハンター対戦ゲームを大学祭で研究室展示しました。内容は、こうです。競技者が競技場に立つと姿が画面に映し出されます。そして、赤リンゴ・青リンゴ、はたまた毒リンゴ・毛虫や白い卵が天空から降ってきます。それらを選んで掴み取るという単純なゲームです。しかし、蜂の登場が皆を熱くします。白い卵を掴むことで、相手側に蜂を登場させ水平に横切らせます。蜂に触れると体がびりびり痺れて何秒間か動けません。これを避けるためには、大きく飛び上がったり身を屈めたりしなければならず、会場は大騒ぎです。

研究室の卒業生もゲームが気になり会場に見に来ます。というのも、このゲームの開発・改良を研究室の学生が学年から学年へ受け継いできたからです。競技者の体や手をカメラで取り出すために、開発当初は色を計ろうと競技者に色鮮やかな手袋を着けたり真っ青なシートを背景にしたりしましたが、今では体の動きを計ることによって、そのままの格好で競技できるようにしました。お陰で研究室展示は今年も盛況で子供はゲームから離れようとせず、大人からは凄いとの声も聞かれました。このリンゴハンターは、研究室みんなの思い出であり財産です。